# 日精診研究助成事業応募の手引き
# ～実践活動奨励賞部門～

## 目　　次


1. 日精診研究助成事業(田中健記念後継事業)とは

2. 選考要領

3. 全体日程

4. 応募要領

5. 申請書類 C セットについて

   ① 申請書
   ② 実践活動概要報告
   ③ 添付資料



**編集　発行**

**(2020 年 12 月)**



**公益社団法人　日本精神神経科診療所協会**

**研究助成事業選考委員会**

# 1. 日精診研究助成事業(田中健記念後継事業)とは

## 1.1 故田中健先生の足跡

「田中健記念研究助成事業」の礎を築かれた田中先生は、1979 年に当時の静岡県清水市に田中医院を開業され、1980 年に田中先生を始め 5 名の静岡県内精神科開業医が情報交換や親睦を目的に定期的に集まり、次第に他の診療所にも参加を呼びかけ、1984 年に田中先生を会長として静岡県精神神経科診療所医会が設立されました。

田中先生は、その後、1997 年まで静精診会長、1984 年から 2000 年まで日精診理事、1998 年から 2000 年までの 2 年間は日精診会長をそれぞれ歴任されました。

しかし、日精診会長になられた 1998 年には既に体調不良が始まり、会長職を終えられた後の 2002 年には奥様がご病気で他界、それ以後はお一人で生活しながら日々の診療を続けられましたが、田中医院は 2004 年 12 月に閉院、2005 年 1 月 4 日に田中先生は永眠されました。

## 1.2 田中健記念研究助成事業の歩み

生前、田中先生は、「臨床の合間に研究をしたい」という会員のニーズと「〈診療所という医療の原点〉で働くわれわれに“知識の遅れ”は許されない。知識の吸収にはもっとエネルギーを向ける必要がある」、「日常の診療の中から精神医学的体系作りができれば、日精診の社会的存在意義はより確固なものとなるだろう」(田中健先生追悼・遺稿集より抜粋)と語られていましたが、ご遺言で 3,000 万円を日精診に寄付されることとなりました。

これを受けて、日精診理事会で検討を重ねた結果、田中先生のご遺志を受け止め、2007 年から 2018 年までの 10 年間、「田中健記念研究助成事業」を実施することとなりました。本事業の性格を踏まえ、審査の公平性を保つべく、杏林大学名誉教授田島治先生に外部委員をお願いし、かつ、広く日精診会員以外にも募集の門戸を広げ公募することとなりました。

当初は 5〜6 件程度の応募しかありませんでしたが、本事業の認知度が上がるにつれて応募数は増加してきました。他方、応募しても残念ながら採用されない案件も増えてしまい、助成金の適正配分作業は難しい作業でしたが、関係者間の新たな交流、新たな実践活動など地域精神医療のレベルアップの契機となり、一流の学会誌や国際学会で発表されて世界的な注目を集めた研究が登場するなど、数々の成果は、まさしく田中先生のご遺志そのものであり、日精診事業としてかけがえのない業績、社会貢献といえます。

## 1.3 田中健記念後継事業としての再出発

そして、日精診理事会で「田中健記念研究助成事業」を引き継ぐ必要性、意義が検討され、2018 年 1 月より「日精診研究助成事業(田中健記念後継事業)」へと名称を改め、日精診の予算を確保して事業を実施することが決定されました。

また、新年度を迎えて委員会は渡辺衡一郎杏林大学教授を外部委員に、また全国から新旧併せて総勢 7 名の会員が選考委員に就任しました。

新委員会は選考作業に着手しつつ、個人情報保護法の改正、臨床研究法の成立、厚生労働省、文部科学省の研究補助金をはじめ、大学、研究機関、関連学会等における審査の徹底など諸般の情勢を踏まえ、本事業にも倫理審査プロセスが不可欠と判断し、日精診研究倫理委員会との合同協議を経て、2018 年度より本格的に倫理審査を導入、2019 年度(令和元年度)には、今まで以上に広い関連領域、専門職を視野に入れて、新たな募集要領、選考要領に基づく研究公募の実施に至ったところです。

## 1.4 より高い目標に向けて

さらに、2020 年度より新たに「実践活動奨励賞」部門が設置されました。

現在までに地域もしくは診療所等で実践してきた活動実績であり、今後日精診会員、非会員を問わず、広く臨床場面や地域活動において利用可能な支援ツール、治療プログラム、各種マニュアル、冊子、広報活動等を対象とします。なお、利用に際して特段の許可・料金等の制限、制約は発生しないことが条件です。

最後に、これまで本事業に協力、参加していただいた多くの日精診会員並びに研究者の皆様に改めて感謝申し上げるとともに、今後も一層のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げる次第です。

# 2　選考要領

## 2.1　応募対象者

地域精神科医療に関わる個人又は団体を対象とします。

## 2.2　奨励賞受賞対象者

地域精神科医療の発展に寄与すると思われる個人又は団体による実践活動を対象とします。

## 2.3　選考方法

実践活動奨励賞は選考委員会で公正・厳正な審査を行い、選考します。

## 2.4　選考結果

選考結果は、応募者に通知するほか、日精診機関誌、ホームページ に公表します。

## 2.5　表彰方法

受賞者には賞状ならびに賞金を授与します。

## 2.6　受賞報告

実践活動の概要を次年度日精診学術研究会にて口演報告していただきます。

日精診会誌に論文を提出していただきます。

# 3. 全体日程



# 4. 応募要領

## 4.1 書類 C セットの作成と送付

下記の書類 C セットの様式を日精診ホームページ（http://www.japc.or.jp/）からダウンロードしてください。そして、後述の記載要領を踏まえて書類を完成してください。

郵送もしくはメール添付で、下記宛に **2026 年 12 月 15 日午後 4 時必着**でお送りください。

公益社団法人 日本精神神経科診療所協会 事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-38-2 ミヤタビル 7F

TEL：03-3320-1423　E-mail：office@japc.or.jp

## 4.2 その他

- 応募要領に関する問い合わせは、上記の日精診事務局へ電話もしくはメールでお願いします。

# 5. 書類 C セット（①申請書・②実践活動概要報告書・③添付資料）について

① 申請書： 下記の見本に従って作成してください。記入漏れや誤記のないことを確認してください。

日精診研究助成事業（田中健記念研究助成後継事業）**実践活動奨励賞**部門　申請書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 申請者氏名 | 都道府県名 | 東京都 | | 氏名 | 日精診　太郎 |
| 申請担当者<br>連絡先 | 日精診会員・非会員 | 会 員 ・ 非会員 | | 役職 | 医師 |
| | | 所属　医療法人社団 日精診メンタルクリニック | | | |
| | | 〒151-0053<br>住所　東京都渋谷区代々木 1-38-2　ミヤタビル 7 | | | |
| | TEL：03-3320-1423 | | | FAX：03-3320- | |
| | | E-mail　office@japc.or.jp | | | |
| 実践活動のテーマ・名称 | | 外国人の精神神経科診療所通院者向け<br>外国語版診療補助マニュアル作成及び無料配布活動 | | | |

申請者本人が会員か否

今後こちらに記載されたメールアドレスへご連絡いたします。

実践活動のテーマ・名称を記載してください。

| | | |
|---|---|---|
| 実践活動内容の要約<br>（200 文字以内） | | 2010 年 4 月より、外国人の精神神経科診療所通院者の増加に伴い、診療受付から診療終了までの会話、医薬品情報、さらに保険診療、自立支援医療制度の申請など多岐にわたり課題が表面化した。<br>そのため、これらの課題を理解し、相互の関係性を醸成、改善することに役立つ外国語版診療補助マニュアル作成に取り組んだ。<br>具体的には当地区の診療所協会の有志 10 名が協力して日本語版の原本を作成、地域在住のアジア系外国人の応援を得て、これまでに 3 カ国語の翻訳版を完成、協会会員、及びユーザーに無料配布してきた。<br>ついては、本活動の意義と活用実績について紹介し、さらに本活動の成果を多くの地域で共有すること、また活動の輪を広げていきたいと期待している。<br>実践活動を開始した背景、理由、経緯、主な内容、意義、今後期待される点、会員へのメリット、地域医療への効用などをわかりやすく要約して記載してください。 |
| これまでに関わった総人数：注１ | | 約 50 名 |
| これまでに要した費用：注２ | | 約 120 万円<br>概略を記載してください。 |
| 実施開始時期-通算期間 | | 開始：2010 年　4 月　1 日　　通算期間：　10 年 6 カ月 |

＊ 必ず実践活動の内容がわかる写真・資料を添付すること。

＊ 上記の注１，２の具体的内訳は別添１に記載してください。

**②実践活動概要報告書**：**下記の見本に従って作成してください。記入漏れや誤記のないことを確認してください。**

別添 1

# 実践活動概要報告書

**記載者氏名**　　**日精診　太郎**

| | |
|---|---|
| 実践活動のテーマ・名称 | 外国人の精神神経科診療所通院者向け<br>外国語版診療補助マニュアル作成及び無料配布活動<br>C セット様式 1 に記載したテーマ・名称を記載してください。 |
| 目的 | 精神科診療所を利用する外国人ならびに関係者の利便性の向上、精神科診療所のスタッフの負担軽減、診療の質の向上など。<br>活動目的を具体的・詳細に記載してください。 |
| 方法 | 具体的には当地区の診療所協会の有志 10 名が協力して日本語版の原本を作成、地域在住のアジア系外国人の応援を得て、これまでに 3 カ国語の翻訳版を完成、協会会員、及びユーザーに無料配布してきた。 |

| | |
|---|---|
| これまでに関わった総人数の内訳 | 地区協会：約 30 名<br>外国人サポーター：10 名<br>在日大使館：5 名<br>地元自治体：5 名<br>内訳を具体的・詳細に記載してください。 |
| これまでに要した費用収支の内訳内訳 | 収入：会員の無償協力<br>支出：印刷製本費　70 万　郵送費　30 万　謝金　20 万 |
| 実践活動の経過 | ● 2010 年:会員アンケート内容を検討、決定<br>● 2011 年:診療マニュアル日本語版作成<br>● 2013 年:英語版完成配布<br>● 2015 年:ベトナム語版完成配付<br>● 2017 年:中国語版完成配付<br>● 2020 年:コロナ禍のメンタルヘルスの追加作成「<br>時間経過について具体的に記載してください。 |
| その他参考事項(受賞歴・新聞記事掲載など) | 2017 年 3 月　○○協会より感謝状受賞、○○新聞掲載→資料添付 |

**③ 添付資料：活動内容がわかる写真・コピー等の資料等を添付すること(様式は問いません)**

日精診研究助成事業（田中健記念研究助成後継事業）**実践活動奨励賞**部門　申請書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 申請者氏名 | 都道府県名 | | | 氏名 | |
| 申請担当者<br>連絡先 | 日精診会員・非会員 | 会 員 ・ 非会員 | | 役職 | |
| | | 所属 | | | |
| | | 〒<br>住所 | | | |
| | TEL： | | | FAX： | |
| | | E-mail | | | |
| 実践活動のテーマ・名称 | | | | | |
| 実践活動内容の要約<br>（200 文字以内） | | | | | |
| これまでに関わった総人数：注１ | | | | | |
| これまでに要した費用：注２ | | | | | |
| 実施開始時期-通算期間 | | | | | |

＊ 必ず実践活動の内容がわかる写真・資料を添付すること。

＊ 上記の注１，２の具体的内訳は別添１に記載してください。

別添 1

# 実践活動概要報告書

記載者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

| | |
|---|---|
| 実践活動のテーマ・名称 | |
| 目的 | |
| 方法 | |
| これまでに関わった総人数の内訳 | |
| これまでに要した費用収支の内訳内訳 | |
| 実践活動の経過 | |
| その他参考事項(受賞歴・新聞記事掲載など) | |

③ 添付資料：活動内容がわかる写真・コピー等の資料等を添付すること(様式は問いません)